十七文字の抒情詩

猛暑の夏です。皆さん暑さに負けていらっしゃいませんか？
お盆過ぎてもこの暑さはとうぶん続きそうです。
お身体ご自愛なさって下さい。
さて今回もうさおさん、健さんからたくさん投句を頂きました。
さっそくうさおさんの句から拝見しましょう。

手のひらに梅雨したたりてあたたかし

同じ雨でも梅雨の雨の温かさを詠まれたのですね。
ただ、あたたか・・は春の季語なので重季となってしまいます。
あたたかいをやわらかなに変えてみましょう。
＊掌にしずくやはらか梅雨入（ついり）かな

梅雨ぽつん次の軒までひた走る

雨が降り始めて軒から軒へ走る。梅雨の初めのころの事でしょうか。
梅雨ぽつん、は面白い表現なのですが、季語を有効に使うなら
＊走り梅雨ぽつん軒までひた走る

抜け替わる犬の夏毛をむしり取り

動物も暑い時期は夏毛に変えて少しでも涼しく過ごしたいですよね。
むしり取るって言うのが少し強いかな・・
＊端居して犬の夏毛を梳いてをり

陽を避けて涼とる犬を踏みつけて

避ける、涼とる　踏みつける　と１７文字の中に３つも動詞が入ると
どうしてもごちゃごちゃした感じになりがちです。
昼寝という夏の季語を使いましょう。季語の昼寝は木陰（涼しい場所）で
束の間の休息を取るという意味にもなるのです。
＊うっかりと昼寝の犬に躓けり

夏の濱人賑わうも寂しけり

夏の賑わいがあればあるほど、人が去ったあとの浜には寂しさを感じます。
＊賑わいを見せて寂しき夏の濱

あるじ無き柘榴の花も盛りなり

この句良いですね。空家になってしまった庭の柘榴の花でしょうか。
一生懸命咲いている、可愛い朱の花が見えるようです。

犬踏みて片喰の種飛びはぜり

カタバミの種が犬に踏まれて飛んだ瞬間を捉えるなんて、さすがですね。

＊犬の踏む片喰種を爆ぜにけり

うさおさんの句は、どれも日常にご自分で体験した事がベースになっています。実は俳句は、この写生が最も大切と言われています。これからもたくさん写生して下さい。その上で最も有効的な季語を見つけられる事が今後の課題だと思います。季語に秘められた深い意味を読み取って句に加えると、もっともっと深みのある句が出来ると思います。

それでは次に健さんの句です。

星涼し港に残るジャズ喫茶

良いですね。

港町の古いジャズ喫茶が、季語の「星涼し」でよりはっきり見えてきます。

南風吹くみなとみらいに帆のホテル

帆のホテルと南風がよく響きあっていますね。南風はなんぷう、みなみ、はえ、とさまざまに呼ばれます。大南風（おおみなみ）南風（はえ）の波などと使います。お上手な句です。

エコー診る医師のつぶやき半夏生

病院での検査ですね。難しい季語、半夏生（はんげしょう）を上手く取り入れていらっしゃいます。つぶやき・・が気にはなるのですが、逆にこれでお医者様の様子がよくわかるし、このままでもいいかな。

大夕焼け砂丘の影を長く引く

これも雄大な景色が見える良い句です。

大夕焼（おおゆやけ）と季語をバン！と持ってきて、中七下五をさらっと・・すごく良いですね。大夕焼け→大夕焼。送り仮名はいらないです。

海の日の遠く沖見る少女像

山下公園の赤いくつの女の子の像との事、

公園から海を見下ろす・・って感じなのかしら？

＊海の日や遠く沖見る少女像

＊海の日の少女の像の赤き靴

いろいろ考えてみたけれど、結局健さんのが一番良いかな？

蛍籠吊って眠りの途につけり

ロマンチック～！昔は蛍籠を吊るしましたよね…
懐かしさも感じます。

二日目のカレーを食べる大暑かな

お上手！二日目のカレーって発想がすばらしい。
＊二日目のカレー煮詰める大暑かな

ビヤガーデンビルの上より笑い声

ビアガーデンの様子をビルの上から聞こえてくる賑わいに詠まれたのが面白いです。
＊ビアガーデンビルより笑ひ声の降る

夏山や岩にペンキの道しるべ

すっきりとした良い句です。
余分な言葉がないだけに、どんな道標なのかと想像してしまいます。

健さん、たくさんの投句ありがとうございました。
どの句も添削の必要がない程お上手で、進歩されているな、とうれしくなりました。これからもどんどん良い句を詠んで下さいね。

暑さのせいだけではなく、何となく怠け心で、なかなか作句出来ないでいる私ですが、
うさおさん、健さんの俳句を拝見して、もう少しがんばらなきゃ！と
反省しております。次回も投句お待ちしています。

またあした明日無く六十二年目の夏

老人の唄ふ「ふるさと」終戦日　　ゆうこ